近代獣医学 七高などで教べん

独学者ヤンソンしのぶ

没後110年、命日に　草牟田墓地

日本の獣医学発展に尽力したヤンソンをしのぶ参列者＝28日、鹿児島市の草牟田墓地

お雇い外国人として明治時代に来日し、第七高等学校造士館（現鹿児島大）などで近代西洋獣医学を教えたドイツ人学者ヨハネス・ルードヴィヒ・ヤンソン＝写真＝の没後１１０年記念式が28日、墓所の鹿児島市草牟田墓地であった。同日は氏の命日。大学関係者や親戚ら20人が功績をたたえ、思いを新たにした。

鹿大などによると、ヤンソンはベルリンの陸軍獣医学校の助教授だった１８８０（明治13）年に31歳で来日。20年以上にわたり東京帝国大学などの教壇に立った。退職後の１９１０（明治43）年に妻・谷山ハルの郷里である鹿児島に移住し七高で教えた。14年に65歳で他界した。

式は牧師の進行で賛美歌を歌い、祈りをささげて献花した。鹿大の岩井久副学長があいさつ。ヤンソンの足跡を振り返り、今年4月に曽於市財部に開所した南九州畜産獣医学拠点（通称ＳＫＬＶ＝スクラブ）について「日本で初めての施設であり、新たな社会貢献活動になる。天国から見守ってほしい」と述べた。

志學館大学の原口泉教授も、獣医学の礎を築いた功績をたたえた。

ヤンソンの孫・鳥野兼光さん（故人）の妻ユリ子さん(83)＝鹿児島市桜ケ丘４丁目＝は記念式開催に尽力。「関係者の協力で、集いを実現することができて心より感謝している。一人でも多くの方にヤンソンの偉業を知ってもらえればありがたい」と話した。

（中島裕二郎）